

憲法守らない首相に 憲法語る資格なし



臨時国会の所信表明演説で、安倍首相は「改憲」への執念をむき出しにしました。「憲法審査会を動かせ」と言わんばかりの首相の演説は、国会への重大な干渉であり、三権分立をおかすもので許されません。

ましてや、国民は改憲をのぞんでいません。どの世論調査でも、「臨時国会への改憲案提出」について、反対が賛成を上回っています。国民が政治に求めているものは、第一に「社会保障（年金・医療）」、第二に「経済対策（景気対策）」です。

「憲法を変える」のではなく、「憲法を守り生かして、暮らしを守る」ことこそ求められています。

「改憲」いららない くらしを守れ

課題山積の臨時国会 くらし第一の審議を

臨時国会では、この間の地震・洪水・台風などへの災害対策、被災者支援の緊急施策が求められます。「防衛予算より防災予算を」「カジノより被災者対策を」の声は切実です。

森友・加計疑惑も解決していません。ウソにウソを塗り重ねた公文書改ざん・隠蔽・虚偽答弁。その責任を問わずに、麻生財務相留任など認められません。

また、「来年秋に消費税10%なんて、とんでもない」の声も高まっています。主権者・国民の声を大切にしたい、くらし第一の国会審議が求められます。

安倍9条改憲は、「戦争する国」への道

「北朝鮮の脅威」がなくなりつつあるのに、イーグリスアショアやオスプレイなどアメリカの高額兵器を購入し、軍事費は過去最高です。安倍首相は、さらに、憲法9条に「戦争する自衛隊」を書き込む「安倍9条改憲」で「海外で無制限に武力行使できる国」をねらっています。

安倍首相は自衛隊観閲式で自衛官に「改憲」の訓示を行うなど、憲法を守るべき義務をもつ首相として絶対にやってはならないことを繰り返しています。憲法を守らない首相に、「改憲」を語る資格はありません。

政府は、沖縄の声を聞くべきです

9月30日の玉城デニー沖縄県知事誕生に続き、豊見城市長選、那覇市長選と、「オール沖縄」が3連勝しました。政権総ぐるみの圧力をはねのけ、沖縄県民は「辺野古に基地はつくらせない」「普天間基地は今すぐ閉鎖・撤去せよ」という民意をきっぱりと示しました。ところが、安倍政権は違法な手段を使ってでも辺野古新基地建設を強行しようとしています。

子どもたちの未来に基地はいりません。政府は、沖縄県民の立場でアメリカにモノを言うべきです。沖縄の民意を尊重する政治が求められます。

あなたも「3000万人署名」を